未亡人

帝キネ現代映畫

原作並脚色者　前田重信
監督者　高見貞衛
撮影者　鍋本榮一

――主要役割――

杉田屋未亡人　おりえ　鈴木澄子
その娘　町子　山路ふみ子
大番頭　利平　上代勇吉
店員　宗吉　牧野英勝
酒屋の主人　鐵三　大野三郎
娘　おせい　久米順子
惣兵衛　浅野節
その息　秋雄　上田寛
銀行支配人　橘光造
宗吉の父　片岡好右衛門
同　母　中村榮子

解説――高見貞衛氏の「近代結婚風景」に次ぐ作品である。

略筋――或古風な酒作りの町に、杉田屋といふ酒問屋がある、女主人のおりえは、夫を三年前に失くして、遺された娘、町子と傾きかけた大屋敷とを身一つに支へてゐたが、亡き杉田屋の友達である鐵造の娘おせいが町子の戀人秋雄を想つてゐるので、鐵造は杉田屋に融通した數千圓の債務の返還を迫つて、この舊家を沒落させやうとする。番頭の利平は主家の危急を知り、粗悪な酒に、杉田屋の銘をつけることによつて、その金を浮かせやうとしたが、家の暖廉たきづかふ雇人宗吉に妨げられて、折角の苦心も水の泡となつてしまふ、宗吉はひそかに町子を想つてゐたが、利平から罵詈と共に棄兒である素性をあかされて、悲しい戀を諦めてしまふ。女主人のおりえは、進退はまつて、町の銀行家に、身を委せてその金を作つたが家の暖廉と娘の結婚の犠牲になつたおりえは、その時すでに新らしい苦闘の運命を背負はされる。おりえは、この破廉恥な秘密をかくしとほすために、ひそかに山の温泉で身二つになり汽車の中で逢つた宗吉の親に、それをあづける、町子と秋雄の結婚は間もなく母の悲しい努力に依つて近ついて來た。がその事が、おせいの言葉から、秋雄の父の誤解をうけてしまふ。秋雄は昂奮して町子を詰問する。町子は母を庇ふために戀を諦めて生れた幼な兒の母が自分であると告げる。秋雄は失望して旅に出やうとする時手代の宗吉が停車場へかけつけて、眞實を語る。おりえがすべてを知り、戀を諦めた町子を抱いて涙にくれてゐる時停車場から秋雄が引きかえして來る。古風な町の悲劇はこうして靜かな幸福をよみがえらすのであつた。

寫眞　「未亡人」帝キネ高見貞衛作品。右より山路ふみ子と鈴木澄子。